

http://www.inf.shizuoka.ac.jp

行事報告

Report of events

## 2020 年度 情報学部 春季保護者懇談会

2019 年度情報学部学生委員長 高橋 晃



動画サイト

2020年度は、新型コロナウィルス対策のた め、静岡大学では入学式が開催されませんでし た。これに伴い、例年入学式後に行われていた 「情報学部 春季保護者懇談会」も、ビデオによ る説明動画を閲覧していただく形での開催とな りました。

4月上旬に、情報学部の Web サイト (http://www.inf.shi zuoka.ac.jp/) の「お知らせ」より告知を行い、「静大 TV」 (https://sutv.shizuoka.ac.jp/video/258/2369) にて公 開させていただきました。こちらの QR コードよりご覧くだ さい。内容は、近藤学部長のご挨拶から始まり、学部を構成 する3学科(各学科長)、学業(教務委員会)、学生生活(学 生委員会)、就職等のキャリア (キャリア支援室)、国際交流 (国際交流推進室) の各々について、情報学部における現状の

ご説明をいたしました。

2020年10月現在、この保護者懇談会動画の視聴数は 2800 を超えました。例年直接ご来場いただいていた場合に は250人程度の参加者でしたので、今期は10倍以上の数の

方にご覧いただいたことに なります。これにより、こ れまで遠方で静岡にお見え になりにくかった保護者の 皆様にも情報をお届けする ことができました。まだご 覧になっていない皆様にお かれましては、ぜひこの機 会に左記の QR コードより ご視聴ください。



Ch.4 大学から > 債銀学部 > 【新え生・保護者の皆様へ】 静岡大学 情報学部 春季保護者

## 2020 年度夏季オンラインオープンキャンパス

情報学部広報委員長 田村 敏広

例年8月に開催される静岡大学情報学部夏季オープンキャ ンパスも、今年はコロナ禍により通常の開催を断念し、オン ラインにて開催いたしました。オンラインでの開催は初の試 みとなりましたが、8月上旬に特設ホームページを公開し、 2ヶ月間で約4500件ものアクセスがありました。

オープンキャンパス特設ホームページには、学部長挨拶や 学部・学科紹介、入試、キャリアに関する動画を掲載いたし ました。なお、通常の開催の際に実施している個別入試相談 会は、今回は特設ホームページで募集を行い、8月7日にオ ンライン(リアルタイム)にて開催いたしました。また、大 学の講義や教員の研究を高校生に分かりやすく伝えるミニ 義動画(板口典弘先生『情報学部における心理学研究』、梶原 千里先生『製品やサービスの品質をマネジメントするとは?』、 スーター・レイ先生『異文化交流とコンスマーカルチャーと

マスコットキャラ クター』) や、学 生団体「静大xR 同好会はまりあ」 が作成した浜松 キャンパス VR コ ンテンツ「バー チャル情報学部」 など、オンライン



開催を生かしたコンテンツも多く掲載いたしました。今後の開 催では今回の経験を生かし、通常の形式による開催でもオンラ インコンテンツの公開など、新しい開催の形を模索していきた いと考えております。

# 令和2年度静岡大学秋季学位記授与式

情報学部学生委員長 M. G. SHEFTALL

令和2年9月11日に令和2年度静岡大学秋季学位記授与 式を情報学部・工学部合同で浜松キャンパス内の附属図書館 分館・学生支援棟(S-Port)で挙行しました。新型コロナウィ ルスの感染防止に配慮し、授与式会場であった S-Port 3階の 「大会議室」で座席の間隔を空けて関係者のみといった対策の うえ実施されました。

式に先立ち、静岡大学吹奏楽団による演奏で式典に華を添 えました。式に入り、石井学長が暖かい告辞メッセージを「バ イリンガル」(日本語・英語)で送りました。これに対し、浜 松キャンパス卒業生・修了生代表のプラムディ・サウィデャ・ ジャヤワルデナさん (工・院)からの謝辞の後、情報学部の 卒業生・修了生の代表として、ABP 2期生で情報社会学科の ホアン・ヒエップ・ドさんが学位記を石井学長から手渡され ました。式が終了してから、各部局が別々の会場で学位記授 与を行いました。写真は近藤学部長から学位の手渡しが実施さ れた「学位記伝達式」後の集合写真となります.

令和2年度の秋季卒業・修了生として、留学生を含む情報

学部卒業生 12 名(うち ABP5 名),総合科学 研究科情報学専 攻修了生11名 (う ち ABP11 名) の門出を祝 いました. 卒業 生、修了生の皆 様、おめでとう ございます!



## 数理・データサイエンス入門 数理・データ

数理・データサイエンス教育研究所所長, 情報科学科 小西 達裕

「データサイエンス」はコンピュータ技術の発展と社会の情報化に伴ってますます重要になっている「大規模データに基づく問題解決の方法」を扱う学問であり、現代のすべての大学生にとって学ぶ意義があるものです。静岡大学では2020年度入学生より、全学生が1年次に「数理・データサイエン

ス入門」を受講することになりました。この 科目の特色として、全ての授業がネットワーク上に置かれた動画を視聴することで受講できます。受講生は大学・自宅その他自由な場所で、自由な時間に受講可能です。授業内容の特色として、データサイエンスの技術的な面ばかりでなく、現実社会での有用性を示す豊富な活用事例が示されており、また社会人としてデータを活用する上で必須な情報モラ ルや法律の知識など、文系から理系まで全ての学生に学んでい ただきたい事柄が盛り込まれています。

情報学部にはこの分野の専門知識を持つ教員が多数在籍しており、上位学年でデータサイエンスへの学びをさらに深めるための最適な環境をご提供できます。



# ■「匿名加工情報」の定義 ■ 個人情報保護法 2条9項 「特定の個人を識別することができないように 個人情報を加工して得られる個人に関する情報であって、 当該個人情報を復元することができないようにしたもの」

としてデータを活用する上で必須な情報モラ (動画教材 情報モラル「データの取り扱いに関する注意」より。担当 情報学部 原田伸一朗 准教授)

# オンデマンド下での演習授業(情報社会学科 1 年前期必修「プログラミング入門」) 情報科学科 遠山 紗矢香

2020年度新入生向けカリキュラムでは、これまで 1 年生の後期必修授業として行ってきたプログラミングの授業を前期にも行うことになりました。本稿では 2020年度前期に実施された情報社会学科対象「プログラミング入門」(木谷友哉教員、杉山岳弘教員との共担)をご紹介します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今期の授業はオンデマンド形式で実施しました。教員からの講義資料と動画の配信、受講生からの質問や課題提出の受付は、全てグループウェアを用いて実施しました。質問はグループウェア上の掲示板とメールの2つの方法で随時受け付けたほか、教員とTAがリアルタイムで質問に応じるべく待機する時間を各週4.5時間設けました。各授業では課題として小さなプログラムを制作してもらい、最後には学んだことを用いて自由な作品を作ってもらいました。画像はコンピュータとの「ブラックジャック」対戦ゲームを作った櫻井優似さんの作品です。素晴らしい完成度でした。授業後のアンケートでは、「今

のままでいいと思うくらい毎回楽しくやりがいがあった」という意見があった反面「もう少し説明を多くしてほしい」という意見もありました。今後も教員・受講生間の意思疎通を大事にしながら進める予定です。



# 英語コミュニケーション力の強化:「Communication Skills I-A, I-B」

情報社会学科 大瀧 綾乃

2020年度入学生よりスタートした新カリキュラム。情報学部の英語専門科目では、英語コミュニケーション力を強化するため、1年生必修科目「Communication Skills I-B(後期)」を開講しています。

授業は英語のネイティブスピーカーである教員2名





オンライン授業の様子(左:Suter 助教、右:Sheftall 教授)

今年度はオンライン授業となり、本授業では Zoom を用いたリアルタイムの双方向型授業を実施しています。 Zoom による英語でのディスカッションでは、対面よりも更に活発な議論が行われています。受講生がこのように積極的に英語を用いてコミュニケーションをとれる授業を継続し、2年生以降の英語学習に繋げていきたいと考えています。

### 研究紹介 情報科学科 峰野 博史, 行動情報学科 湯浦 克彦

河合塾が運営している「みらいぶプラス・みらいぶっく(学問・大学ナビ)」(注1)へ峰野研・湯浦研が紹介されました。河合宿が運営しているサイトで、ふとした本との出会いや関心から学問・大学をみつけることができ、様々な大学・研究者の紹介、おすすめの本などが掲載されています。

「情報ネットワーク」分野で紹介された峰野研究室の研究は、「スマホデータの増加負荷を軽減!高信頼な無線制御を目指す形態情報ネットワーク研究」です。スマホの普及が進み、動画コンテンツの増加に伴い、携帯電話網のデータ量が急激に増加しています。ただ、携帯電話網のデータ量は時間的には昼時や夜間に、空間的には都市部に集中しています。そこで、このようなモバイルデータの時間的、空間的局所性を考慮して、通信インフラの負荷を分散させられないか考えました。また、通信の分野でも、機械学習や深層強化学習といった人工知能を用いて複雑な局面での最適な制御手法を見つけようとしています。世の中の様々な社会問題を解決するために、どのようなICTの活用方法が考えられるか考えてみると、アイデア実現のために必要な知識や技術が何か(プログラミング、アルゴリズム、確率統計、英語、国語など)気づくことができると思います。

「図書館情報学・人文社会情報学」分野で紹介された湯浦研究室の研究は、「人や組織がそれぞれ目指すべき情報サービスを"デザイン"する」です。人々の生活をより便利に、企業・組織の業務をより高度にするための情報サービスを構築する方法について研究しています。デザイン(設計)というのは、建築や機械などでこれまで行われてきたことですが、コンピュータとネットワークを手に入れた現在の情報サービスでは、飛躍的に高い自由度が与えられています。研究室で特に

大事にしているのは、従来の設計者主義の設計ではなく、利用者との協働と対話を重視して開発する技法です。利用者に設計者の意図を感じてもらえるようなプレゼンテーションシステムや、設計の側が利用者の感じ方を学習するような共感分析システムのようなテーマも研究してきました。情報は進化している学問です。しっかり学ぶべき基礎もありますが、若い学生の感性やアイデアが新しいコンセプトや製品、サービスを生むチャンスに溢れていると思いますよ。注1:https://miraibook.jp/





# 第19回情報科学技術フォーラムFIT奨励賞受報告

〜人型ロボットとの日常会話を用いた認知症早期発見の検討〜 総合科学技術研究科情報学専攻 吉井 謙太



る人型ロボットとの日常会話から認知症の早期発見を目指しています。今回、第19回情報科学技術フォーラムでは、認知症の前段階である軽度認知障害患者と人型ロボットが日常会話をしている音声を分析し、健常者と軽度認知障害患者間で異なる発話特徴が得られたと報告しました。人型ロボットとの日常会話を用いた認知症早期発見の可能性を評価していただき、FIT 奨励賞を受賞しました。

# 第43回日本神経科学大会 ジュニア研究者ポスター賞受賞報告

~義手の使いやすさ向上を目指した心理運動学的基礎研究~ 情報学部4年 安藤 瑠称





義手の機能性の目覚ましい発展の一方で、義手の使用をやめてしまう人が多いという現状があります。私たちは、この要因のひとつとして、義手を着脱するときの腕の重さ変化が挙げられると考えました。そこで、前腕につけたおもりの変化が、手を伸ばしてものを掴む運動に与える影響を調べたところ、おもりが重くなった場合には手を伸ばす運動が必要以上に高くなってしまう状況が続くことが分かりました。この結果から、腕が重くなった場合には普段と異なる運動制御の方略が用いられることが、義手使用の継続を難しくしてしまう一因になっていることが考えられます。

この問題を克服するために、今後の研究では、今回得られたデータを用いて腕の重さ変化と運動制御の関係を数式化し、どのようにすれば重さ変化に効率よく適応できるかを明らかにしていきたいと思います。

### 美術館の魅力を伝えるために

#### 情報社会学科4年 鈴木 夏海

私は、子どもを対象とした美術品 を紹介するガイドブックの、展覧会 の集客に与える影響力を調査する卒 業研究を行っています。

自分自身、大学で学芸員に関する 授業を受けてから、美術館の魅力に 惹き込まれるようになりました。 「こんなに面白い場所、小さい頃か らたくさん行っておけばよかったな



…。」この思いが、本研究を始めたきっかけです。

研究で使用するガイドブックでは、美術に関するゲームやクイズなど、子ども達に楽しんでもらうための工夫を取り入れています。自分で作った冊子を実際に配るという経験は初めてなので、不慣れな点も多くありました。しかし、先生方や周りの仲間達から多くのご助言を頂くことができたため、満足いくものを完成させることができました。

また、今回の研究では大学内外の多くの方々にご協力いただきました。お忙しい中、ご支援いただきました皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

多くの子ども達にガイドブックを手にとっていただき、美術館に興味を持っていただければと思います。

令和2年度キャリア支援室の取組み

## 教育実習にも活きた学び

#### 行動情報学科4年 板東 蓉子

私は学部3年生の時に、1年時に興味を持った統計学を学ぶことができる研究室に所属し、研究室では臨床研究や病院満足度調査のデザインや分析を体験してきました。卒業研究では、医療統計によく用いられる生存時間解析の中でも特に、治癒するグループを考慮したモデリングについて研究しています。卒業後は静岡大学大学院へ進学



予定で、卒業研究を継続したいと考えています。

今年の研究室内でのゼミや意見交換は、感染症への配慮のためオンラインツールを用いて行われていますが、例年と変わらない議論を行うことができています。また、毎年、研究室と他大学医学部の研究室との研究交流が行われていますが、今年はそれもオンライン開催でした。それでも、異なる専門分野を持つ学生との議論は大変刺激になります。

また、高校の教員免許取得のための教育実習では、近年需要が高まっている研究分野を生かし、統計ソフトの基本的な利用方法について授業を行いました。生徒からは「統計学に興味がわいた」と感想を貰い、生徒が興味を持ちやすいよう内容を考えた努力が報われました。聞き手の視点を理解する大切さを学んだ教育実習を活かし、今後の学生生活を充実させたいです。

### Student career support

#### 情報学部キャリア支援室 山本 めぐみ

キャリア支援室は、学生の就職活動を支援する組織ですが、1-2年生の段階から学生が自分の将来像を描きそれに向かって学業や課外活動を選択的に実施することや、就職の対象となる職種や企業・組織を調査することを含めて、入学から進路決定までの過程を総合的に支援しています。教員のほかキャリア支援の専門事務職員を含めた8名で、年2回の進路ガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、合同企業説明会の開催、OB・OG会組織との連携による情報交換などを実施しています。

例年に比べコロナ対策による採用試験のスケジュールの遅れが見受けられますが、2020年度は9月末現在、約7割の学生が就職先を確定しております。引き続き未内定学生のための支援に尽力しているところです。

情報学部の卒業生は、情報技術の提供側の企業(IT企業)だけでなく、利用側である製造業、金融業、公官庁、あるい

はネットサービスの企業などにも進路を広げています。企業は、情報技術を用いた事業改革を進めるなかで、見通しのきかない中に針路を指し示すことのできる人材を求めています。そ

のような企業の 求めに応えるに は「自分で考え 行動する力」が 必要です。

キャルファラス アラスを育している機会をしている機会をしているを インクの参加でいます。



進路ガイダンス LIVE 配信の様子(2020/10/15)

# 情報学シンポジウム 2020

#### 情報学研究推進室 田村 敏広

2020年12月25日(金)に「情報学シンポジウム2020」を開催いたします。今回はオンラインによる開催となりますが、例年通り、学外からの発表も受付をいたします。詳細は情報学部ホームページにて追ってお知らせいたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

情報学シンポジウム 2020

- 日時: 2020年12月25日(金)10:20~16:30 (開場 9:45)
- 場所:完全オンライン開催
- 発表参加者:大学院生、学部生、近隣の高校生
- 聴講参加者:制限なし(参加無料)
  - 参加登録:発表者、聴講参加者ともに事前参加登録必要
- 発表申し込み: 12月18日頃締め切り (未定) (登録サイトは11月末ごろ開設します) タイトルと概要 (200-400字) を登録いただきます。こちらは予稿集に掲載します。
- 聴講申し込み:12月23日頃締め切り(未定)



お問い合わせ

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局 TEL:053-478-1510·1511 FAX:053-471-0249

学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp 広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。